

# 室生大野地区 室生大野 20 景

当地区は宇陀市の東部に位置し、旧榛原町と隣接している。伊勢街道（青越え道）の海老坂峠・室生山道を擁する通過地点であるとともに、室生寺の西の大門 大野寺を抱かえる地域である。また、室生ダム湖周辺は室生赤目青山国定公園に指定されている。また当地区内には交通の大動脈である近畿日本鉄道が通り、昭和初期に参宮急行電気鉄道として昭和5年10月に、榛原～伊賀神戸間の運転営業を開始し、榛原駅、室生口大野駅、三本松駅が同時に設置され、現在に至っている。

## 大野寺

白鳳9年(681年)に役の小角が開き、天長元年(824年)に弘法大師が室生寺を開創の時、西の大門と定め一字を建て、本尊弥勒菩薩を安置して、慈尊院弥勒寺と称した。その後、地名を名づけて大野寺と称したという。また弥勒磨崖仏は承元元年(1207年)興福寺の荘園であった時、興福寺の雅縁大僧正の発願で後鳥羽上皇の勅願により造立された。磨崖仏は高さ約11.5mで日本最大級の線刻磨崖仏として非常に有名な遺例となっている。寺宝には、身代わり地蔵と言われる木像地蔵菩薩の国重要文化財をはじめ十一面観音菩薩、鎌倉中期の不動明王磨崖仏などがあるほか、周囲にも多くの石仏や古跡、伝説などが残っている。春のしだれ桜越しに見る磨崖仏は有名。

## 海老坂峠 北向き地蔵

昔、大海人皇子が伊勢へ越えるときこの坂を通った。小さな堂の中に一枚岩に高さ約98cmの浮き彫りにされた地蔵尊があり、銘文は無いが光背が陰刻されていることや整った顔立ちから吉野朝時代の秀作と思われる。背面には彫りかけの石仏が見られる珍しい地蔵尊。また伊勢表街道の道中にあったことから多くの人に慕われていた。現在、毎年8月には地蔵盆会が営まれる。

## 大野伝承の踊り いさめ踊り

起源や由緒は定かでないが、徳川前期頃から伝承されており、元は雨乞いの時や豊作を祝う踊りであったといわれている。現在は海神社の秋祭り例祭の宵宮祭で奉納されている。



## 六地蔵

昔の五ヶ谷街道の中にある。横幅4m、高さ2mの安山岩に半肉陽刻されており、天文9年12月24日(戦国時代)と陰刻されている。

## 室生大野の社寺・地蔵・施設等



## 善正寺

融通念仏宗の寺で、本山は大坂平野区の大念仏寺である。境内の桜は大野寺の枝垂れ桜と共に見事な枝ぶりで有名。



## 妙圓寺

妙圓寺の寺号は元禄四年に興正寺より下付された。妙圓寺と安養寺は浄土真宗本願寺派の末寺であり、地区住民の信仰厚い由緒ある寺である。



## 安養寺



## 正福寺

寺内には県指定文化財の能面がある。境内には30体あまりの石仏が放置されており、これは天保年間より昭和30年頃まで付近に埋もれていたものを地元の人々が掘り起こし、安置した。一説には当時、それまで地域で信仰されていた宗教が代わり、その替りにそれまで地域で祀られてきた石仏がこの場所に集められたといわれている。



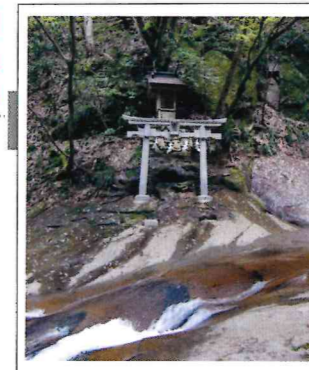
## 半焼け地蔵

弘法大師の作の地蔵といわれている。昔この里で火災があった時、無実の罪で火あぶりの刑にあった女性を救って身代わりに半焼けしたという説がある。その後この地蔵は大野寺に移されて、現在は子安地蔵が祀られている。またこの地蔵の伝説からこの地が半焼けと呼ばれるようになった。



## 海神社

祭神は豊玉姫命で、山と海の五穀豊穡を祈願するため、この名が付いたといわれ、室生の龍穴神社から移された。また豊玉姫命は応永3年に龍穴神社の善女竜王を勧請したとも伝えられている。本殿は桧皮葺で、昭和28年県の文化財に指定されている。左右連結の社殿形式から江戸時代初期のものと考えられているが、古い形式を示す宇陀水分神社や春日大社と、発達した後期の形式である吉野水分神社の間、中間過渡的段階にあるものとして数少ない実例といえる。

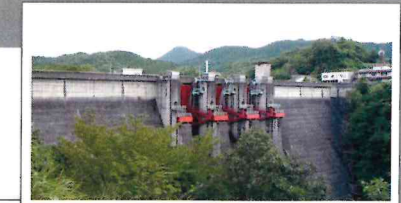


## 龍鎮神社

かつて雨乞いの祈願の際には、まず龍鎮さんへお参りしたと言われていました。龍鎮神社の前には滝と滝壺があり、そこに日没を待って松明をもって登り、降雨を祈願した。松明は使われなくなったが、この神事は今も続いており、海神社の氏子総代、大野自治会長、海神社の神主が龍鎮さんまで行き、祈願をしている。

## 室生ダム

昭和49年に完成した重力式コンクリートダム、青い水を満々と湛えるダム周辺は室生赤目青山国定公園内に位置しており、湖畔は景勝地と憩いの場となっている。ダムと人造湖の境に赤い吊り橋(下山橋)が風景の中のアクセントになって、一層美しさを演出している。周辺の木々が紅葉する秋は美しく、夕焼けを映し出す風景は絶景なり。



## 〈室生ダム湖周辺施設〉



オートキャンプ場



農林トレーニングセンター